

「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」

高等学校定時制・通信制課程における非行・犯罪歴を有する生徒等の
学習ニーズに応じた指導方法等の確立及びその普及を図る

2020 年度 完了報告（3 年次）

N H K 学 園 高 等 学 校

I. 本事業のねらい

本事業は、「再犯の防止等の推進に関する法律」第 11、13 条*を主な理念とし、3 年間の調査研究として実践したものである。すなわち、少年院等に在院する少年のうち高等学校で学ぶ意欲のある者が、矯正教育と並行して高等学校教育を受けることを通じて、社会の中で自らの主体的な生き方を確立するための支援の方法を開発することを目指してきた。具体的には、本校が実践している通信制教育の手法を用いて、在院中であっても高等学校の教育課程の学習を継続させながら、いかにして社会復帰につなげるか、そのための指導法の確立をめざして調査研究を進めてきた。

*「再犯の防止等の推進に関する法律」 [下線：報告者]

(特性に応じた指導及び支援等)

第十一条 国は、犯罪をした者等に対する指導及び支援については、矯正施設内及び社会内を通じ、指導及び支援の内容に応じ、犯罪をした者等の犯罪又は非行の内容、犯罪及び非行の経歴その他の経歴、性格、年齢、心身の状況、家庭環境、交友関係、経済的な状況その他の特性を踏まえて行うものとする。

2 国は、犯罪をした者等に対する指導については、犯罪の責任等の自覚及び被害者等の心情の理解を促すとともに、円滑な社会復帰に資するものとなるように留意しなければならない。

(非行少年等に対する支援)

第十三条 国は、少年が可塑性に富む等の特性を有することに鑑み、非行少年及び非行少年であった者が、早期に立ち直り、善良な社会の一員として自立し、改善更生することを助けるため、少年院、少年鑑別所、保護観察所等の関係機関と学校、家庭、地域社会及び民間の団体等が連携した指導及び支援、それらの者の能力に応じた教育を受けられるようにするための教育上必要な支援等必要な施策を講ずるものとする。

II. 目標及び今年度の成果

本事業の最終年度として、2020 年度の目標は、2 年間の研究成果を基に、高等学校通信教育課程における手法を用いて、いかに在院中の生徒に対して高等学校の教育を展開することができるのか、その教育手法を確立することであった。具体的には、①タブレットを活用した在院時のネット学習の確立、②在院時のスクリーニング、すなわち対面による面接指導の有効な実施方法の模索、③地域連携などを活かした生徒の社会参加の効果の検証の 3 つを柱とした。

もちろん、今回の事業のみから、すべての手法の有効性が明解になったわけではないが、生徒の実際の成長をつぶさに観察することを通じて、多少なりとも実践した手法の効果と可能性を確認できたことが、本調査研究の成果と考える。

上記の成果を得るまで、事業を 3 年間にわたって継続できた土台には、多摩少年院の多大なご協力とご指導があった。そして、何よりも参加してくれた生徒一人一人の強い意思と真摯な努力があったことを銘記させていただく。また、今年度「少年院在院者に対する高等学校教育機会の提供に関する検討会」が開催され、本事業の成果を多少なりとも反映していただけたと感じている。この場を借りて感謝を申し上げたい。

1. 生徒概況

(1) 2020 年度入学生

年度前期については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で入学者の受け入れを見送り、後期に多摩少年院から3年次生2名の入学となった。

過去2年間の本事業で経験を重ねたネット学習の手法を踏襲し、多摩少年院による学習時間の確保や教官による支援、指導が行なわれた結果、2名は、順調に学習をすすめることができた。1名は卒業、1名は自分の進路を実現した。

(2) 既在籍生

①2019 年度 4 月入学生

院内の教官の指導によって、在院中に難関の情報処理資格を取得した。本人の自信、自己肯定感につながり、その後の成長の土台となった。高校での学習は、出院後に一時停滞したが、その後、非常に努力をした結果、2021年3月に卒業できた。現在は、進学を視野に、次のステップへ進むべく準備をしている。

②2019 年度 10 月入学生

着実に学習に取り組み成績は非常に優秀であった。出院後は、本校の運動部に入部。厳しい練習もこなし仲間と共に大会にも出場した。2021年3月に卒業、希望していた大学進学を実現した。

③2018 年 10 月入学生

以前の仲間からは離れて働いていたが、仕事が忙しく、安定して学習を継続することができず、単位修得は進んでいない。2021年度は休学となった。休学中ではあるが、学校と関係がある間に生活が安定させられないか、2022年度の復学をめざすタイミングで、どのような進路選択が可能かを共に考えたい。

④2019 年 10 月入学生

2020年度は、残り12単位と本校の卒業を目指せる状態で迎えたが、学習の面でも生活の面でも不安定となった。ハードな職場の宿舎に入ったため、本人に直接連絡ができず、父親を通しての連絡となった。2021年度の学習継続の手続きが完了していない状況である。

【③、④のケースについての課題】

在院中は安定した環境があり、院内に多数の支援者がいたため、学習へのモチベーションを維持しやすかったが、出院後の学習環境を十分に整えられず、単位の修得、学習の継続が難しくなった。

生活上、また被害弁済などのために就職が必須である生徒が、学習と仕事を両立させる方法について、少年院と連携しながら、さらに理解を深めていきたい。例えば、仕事を探す際には学習時間や学習環境を確保できるか、協力雇用主の理解があるか等ももっと検討すべきであろう。その生徒にとって、いまの生活の中で最も優先すべきものは何かを一緒に考えて考え、見極める支援が求められる。また、学習継続に困難が伴う仕事に就かざるを得ない場合、単位制高校の特性を生かし少ない科目に抑えて履修する、休学や復学、あるいは学習可能になった時の再入学の仕組み等、フルに活用する必要がある。本人の希望

をよく確認し、人生の中で学びが途切れてしまわないよう相談をていねいに重ねていく必要性を痛感した。

(3) 2021 年度新入生

本事業は今年度で完了するが、本校は、2021 年度以降もこれまでの事業と同様に多摩少年院と連携をはかることとなり、既に 4 月入学生の入学面接を実施した。

2. 今年度の目標と成果

(1) 目標

- ①前年度までの成果を踏まえて、在院時のタブレットを活用した学習スタイルを確立するとともに、出院後の在宅でのネット学習継続につながる指導方法を構築すること。
- ②在院時のスクーリングの有効な実施方法、例えば、少年院の施設や更生教育の場の活用、さらには在院者との何らかの面談のシステムが構築できるかを検討すること。
- ③特別活動として、地域や他機関との連携により、生徒の社会参加を促し再犯防止につながる機会をつくること。

(2) 成果

①学習上のオンライン活用の可能性

前年度までと同様、NTT ドコモの学習タブレットを活用することで、「NHK 高校講座」の視聴、レポート学習、その学習成果の学校への送信と添削結果の受信、という一連の学習プロセスを一つの機器で簡易に実施することができた。

また、年度末試験においてオンライン受験を実施した。これは新型コロナウイルス感染症が収束せず、生徒の安全確保が最優先となったため、本校全体で取られた特別の措置であるが、同時に院内におけるオンライン受験が、システム上、十分に可能である点が確認・実証できた。

②少年院内でのスクーリング（面接指導）などの教育の可能性

本事業を通じた多摩少年院とのやり取りの中で、少年院の教官に教員免許状を有する職員が多数いること、院内での体育指導の内容が高等学校の教科としての体育の内容と一部重なり、本校のスクーリングと認め得る可能性があること、同様に少年院での指導の中には、高等学校の特別活動と認められる可能性のある活動があることを確認できた。

上記の可能性は、前述の「少年院在院者に対する高等学校教育機会の提供に関する検討会」の議論をへて、最終的に令和 3 年 3 月 31 日に公布された学校教育法施行規則の一部改正**につながったと思われる。在院している少年たちの高等学校教育の機会が拡大されたことは大きな前進であり、少年たちの希望につながる変化として、特筆しておきたい。

**学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の公布について（通知）

3 多様な学習ニーズへの対応関係

(2) 少年院における矯正教育の単位認定（施行規則の一部改正）

高等学校の校長は、教育上有益と認めるときは、当該校長の定めるところにより、少年院法（平成26年法律第58号）の規定による矯正教育で高等学校学習指導要領の定めるところに準じて修得したと認められるものに係る学修（当該生徒が入学前に行ったものを含む。）を、当該生徒の在学する高等学校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を与えることができること。

（施行規則第100条第3号関係）

③社会参加の意識を涵養するための地域連携

出院前のケースカンファレンス、自分自身を振り返って記述する「振り返りシート」等の取り組みに加え、子ども食堂の支援や花壇整備など、本校がすすめる地域連携の中で地域の力を借りて行う特別活動に参加してもらうことを試みた。自分が役立ったと感じること、感謝されること、他者と関わることを通じて、自己肯定感を培い、今後の社会参加に向けたイメージ持つことにつながった。

Ⅲ. ネット学習

1. 前年度までに確立した基盤

前年度までに NTT ドコモの学習タブレットを活用することで、「NHK 高校講座」の視聴、レポート学習とレポートの送受信を一つの機器で簡易に実施することができた。

以下、その概要である。

(1) ネット学習の流れ

- ①教科書、学習書は印刷物を利用、放送番組視聴はタブレットやパソコン等で行なう。
- ②生徒は、その学習をもとに NHK 学園独自のネット学習システム、N-gaku Online Space (NOS) 上にあるレポート課題に取り組んで回答等を入力し、本校あてに送信する。
- ③科目担当教員が提出レポートに概評を入力し返信する。
- ④生徒は返信されたレポートの添削内容、解答例を確認し学習を完結する。

(2) ネット学習の環境整備の経過

①2018 年度

「NHK 高校講座」の視聴ができる端末を準備
一定の条件のもとにコンテンツ閲覧を制限する「アイフィルター」を利用することで、
「NHK 高校講座」のみの視聴を実現した。

②2019 年度

以下の条件をクリアし、12月からネットレポートでの提出が可能となった。環境が整うまでは、紙レポートに取り組んでもらっていた。

N-gaku Online Space (NOS) での学習を実現するためには、

- a. 外部リンクにアクセスできないこと
- b. 教員も含め、メールのやりとりができないこと
- c. ホームページのお気に入り登録も含め、入力制限をすること
- d. レポート作成において、長文入力（自由記述）をした際、入力内容を教員が確認できる環境であること

「KAITO」というサービスを利用することで、概ね実現することができた。

NOS 内でも、自身の学習状況を確認し、レポートの入口があるだけのサイト（NHK 学園学習手帳）を利用することで、新たな開発をせずに外部リンクのアクセスやメール機能を制限した。自由記述の確認については、ネットレポートの「添削依頼」後は、「学習を開始する」ボタンの代わりに、「解答を閲覧する」ボタンが表示されるようになるため、そこから閲覧することで対処してもらっている。

③2020 年度

年度末試験の院内でのオンライン受験を実施した。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大に対応して、生徒の安全確保のため全校で特別に実施したものであるが、同時

に、院内でのオンライン受験がシステム上、可能であることが実証された。

事前に試験本番と同様の環境を整えたトライアル期間を設け、生徒に取り組んでもらい、試験当日にスムーズに実施することができた。

(3) 引き続きの課題

- ・使用したタブレットは、少年院内のセキュリティ確保を最優先としたため、コピー&ペースト機能が制限されている。具体的には、一部の「NHK高校講座」のサイト内にある「理解度チェック」（番組視聴後の内容確認の問題）に取り組むと表示される「パスワード」の入力ができないなどの支障が出ている。いまのところ、セキュリティを優先するため、改善は困難である。
- ・iPad は持ち歩きが容易であるため、対象生徒は院内で周囲に知られずに「NHK高校講座」を視聴し、レポートを作成することができた。また iPad は、他の教育機関でも利用されることが多いが、外部とのやり取りを制限する機能が充実している。具体的な機能制限については、外部企業（NTT ドコモ）の協力を受けて行った。

一方、iPad はもともとキーボード入力を想定した作りになっていないため、ネットレポートへの取り組みやすさを重視するなら、chromebook 等の方が費用面も含め、利用しやすい可能性がある。

IV. 今年度入学者の状況と環境

年度当初からの新型コロナウイルス対応のため、多摩少年院からの4月入学は見送り、10月入学生が2名となった。昨年同様に院に本校の教員が赴き、本人、家族、教官の先生方とそれぞれ入学面接を実施した。その後、保護者とは面談を行なった。

いずれの生徒も学習と高校卒業、そして家族の仕事を手伝うことを目標とし、更生に向けた意志を持っていた。各生徒の様子は以下の通りであり、今後の指導やケアにつなげるため記録する。

1. 入学者ケース1：Aさん

*履修状況：62単位履修済み、3年次で6科目12単位履修→2020年度で卒業

文科研究・面談報告書		※下線は要点。		取扱注意	
作成日(対応日)				印刷	1枚(共有・担任)
生徒番号		連絡者		対応・記録	研究事業担当 教員2名
性別		家族状況			
在籍(コース・曜日クラス・担任)					
居住地(都道府県・市区町村)					
*所感:家族を思い、また家族に支えられ、更生を強く願っている。院内での指導と合わせて、家族のサポートがあり、その意志は継続可能と思われる。自分自身への振り返りも進んでおり、学習を通して地域へ戻ること、再犯防止が促進されると考える。					
*入学説明及び面接					
I.主な内容					
II.本人の様子・願い					
III.家族の様子・願い					

IV.キーパーソン
 V.受診、支援等
 VI. 経済状況
 VII.その他・教官、担任より

VIII.学園より

2. 入学者ケース2：Bさん

*履修状況：50単位履修済み、3年次で3科目8単位履修→2020年度の卒業は目指さず。

文科研究・面談報告書 作成日(対応日)		※下線は要点。		取扱注意 印刷 1枚(共有・担任)	
生徒番号		連絡者		対応・ 記録	研究事業担当 教員2名
性別		家族状況			
在籍(コース・曜日クラス・担任)					
居住地(都道府県・市区町村)					
*所感：進学への強い願い、意志がある。院内で反省が進んでおり、また…家族の強い進学への支援が得られそうである。さらに振り返る力をつけ、学習活動をすることで再犯の防止につながると考える。					
*入学説明及び面接。					
I.主な内容					
II.本人の様子・願い					

Ⅲ.家族の様子・願い

Ⅳ.キーパーソン

Ⅴ.受診、支援等

Ⅵ.経済状況

Ⅶ.その他気になる点・担当職員より

Ⅷ.学園より

3. 2021年度入学者ケース：Cさん

*履修状況：1年次新入生

文科研究・面談報告書		※下線は要点。		取扱注意	
作成日(対応日)		印刷		1枚(共有・担任)	
生徒番号		連絡者	対応・記録	担任、SSW 2名	
性別		家族状況			
在籍(コース・曜日クラス・担任)					
居住地(都道府県・市区町村)					
*所感：将来、社会人として、自立した大人になるという目標を持っている。そのために高校で知識、学びを積み上げたいと強い意志が感じられる。…事件については、自分を掘り下げながら、反省や必要な社会的スキルの習得を院内で継続している。同時に高校卒業を目指すことが更生につながると考える。					

*入学説明及び面接。

I.主な内容

II.本人の様子・願い

III.家族の様子・願い

IV.キーパーソン

V.受診、支援等

VI.経済状況

VII.その他気になる点・担当職員より

VIII.学園より

V. 指導と生徒状況、出院時の協働

多摩少年院内の学習で、学べる自分を発見したというBさんのように、院での様々なプログラムには更生教育を超えた学びがあると考えます。高校3年生になるまで学校教育の期間は11年以上あった。しかしながら、「今この環境にあっってはじめて学習が楽しいことを知り、学べる自分に自信が持てた」という。その後のBさんについては以下に述べるが、教育のあり方について考えさせられた言葉であった。

ここでは生徒が記入した振り返りシート、特別活動の内容、出院時の様子などを示し、本調査事業を振り返る一助としたい。

1. ケース1：Aさん

2021年3月に卒業した。入学面接に同席した…家族の喜びはいかほどであったろうか。本校集中スクーリングには、初めて一人で宿泊をして出席した。緊張の中、しっかり学習し、国立市との地域活動にも参加した。

院内の更生プログラム、指導の元で自分の課題に気づき、高校卒業を選び取った。教官はじめ他の方の支援を受けられる力（受援力）を大切にしたい。

(1) 生徒の傾向と特徴

生徒が記入した振り返りシート（タイトル「今月の学習記録」）等の記述内容をシステム担当教員が解析にかけ、言葉の抽出とカウントで記述内容を視覚化した。以下はその結果である。ここには入学の動機について記述されたものをあげる。

点数化した評価方法ではないが、一定の傾向が視覚的に読み取ることができる。

*方法：形態素解析はMecabで、さらに辞書をNeologdにカスタマイズして実施。ネガポジ分析は東北大の乾・岡崎研究室が公開している日本語評価極性辞書を活用。n=ネガティブ、p=ポジティブ、e=イーブン ※イーブンはカウントせず別途、頻度のカウントあり。



【概要】

- ・ 語句の使用頻度の多さは、「高校」「卒業」「少年院」「編入」と続く。
- ・ 平らかなイーブンな語句が大半で、ポジティブな語句とネガティブな語句はほぼ同数である。ネガティブな語句には「非行」が複数回、「馬鹿」という言葉が含まれており、非行の結果退学した無念さなどが記述されていた。高校卒業程度認定試験ではなく高等学校を卒業したい、と面接の際も言っていた。その思いが他の語句と比べて突出して大きい「高校」という文字に表れている。

以下、記述の一部を抜粋。

「…（前籍校に）入学当時は周りから馬鹿にされたり、「どうせ卒業できないだろ、1か月も通えばいい方」など言われ、なにがあっても卒業して見返してやると思い高校生活を送っていました。ですが、最初にも書いた通り非行をして退学になりました。…」

3行程度の量ではあるが、卒業間近に家族の願いと自分の決断を自ら頓挫させたことへの後悔は、他の文章と合わせて強く伝わってくる。

多摩少年院内では、高校入学とその学習について教官の先生方がポジティブに認め、支える環境であったことはAさんにとって非常に大きな支えであったと考える。また短い文ではあるが、「これからの人生に役立てたいと思い編入を決めました。」とあり、誰かを見返すといった考えを離れ、自分自身のための決断をした様子が窺える。

【Aさんの振り返りシート】

担当教官署名		NHK 学園担当者署名		計画作成	10月 28日(木)
				報告作成	月 日 ()
				生徒番号	
				氏名	

今月の学習記録

今月の目標: 流れを覚える

1週間の学習の振り返り						
曜日	月	火	水	木	金	土
1	X	X	X	X	X	X
2	X	X	X	X	X	X
3	X	X	X	X	X	X
4	X	X	0	X	X	X

【今月の学習活動の振り返り】

今月本編入して、学習用具も届いて、月の最後になつて通信機器を使つて学習できた。学習時間が短く、時間を意識しすぎてあまり集中できなかった。

今月取り組んだ内容について、印象に残ったことや、質問したいことを記入しましょう。

世界史のレポートはとても難かしくて大変だった。ヒンドゥー教と入信したか、たけ木と、どらの打音が分からずヒンドゥー教にした。国語表現で句読点の位置だけで文の意味が違って分かれて、国語は奥が深いと感じた。

今月取り組んだ内容で、今後の自分に活かせると感じたことを記入しましょう。

役不足、耳障りとか、議論が煮詰まるなどのよく使っている言葉を間違えたり、たべんをしようときがあるし、かつた日本語を使える様に頑張ろうと思った。 大切ですね。

施設担当官からのコメント

短い時間ですが、集中して取り組んでいるように見えました。引き続きがんばって下さい。

NHK 学園担当者からのコメント

NHK 学園の教員と相談の上、テーマを決めて作文しない。

テーマ: NHK 学園に入学した動機

NHK 学園に入学した動機は少年院で入学はもともと、勉強もサポートしてもらってるからです。元々、少年院に入院する前に高校に通ってあり、3年生の10月まで在籍していたので、62単位を持っていました。しかし非行をしまし、少年院に入院する事になりました。中学生頃の卒業後の進路は進学ではなく、足場や解体などの仕事をしようと考えていましたが、家族から「どうしても高校に行きたい」と言われ、進学する事になりました。入学当時は周りから馬鹿にされた。どうして卒業できなかったか、1ヶ月も通えばいいかなど言われ、なにかある。でも卒業して見返してやると思つた。高校生活を送っていました。ところが、最初にも書いた通り非行をして退学になりました。少年院に入院してからは、高校卒業程度認定試験を受験しようと考えていましたが、合格しても高校卒業の資格は取れず、悩んでいた。この頃の先生がNHK 学園を紹介してくれて、家族と相談を重ねてNHK 学園の説明を聞いていくうちに編入して、ここからの人生に役立ちたいと思つて編入を決めました。

慣れた学習スタイル、大変だったけれど、今中では頑張りたい。

言葉は差が、感じ取り、表現力が、短くつきます。いろいろ知れば、日本語のいい所を学んでいって下さい。

高校卒業のタイミングは、早く、自分のタイミングで決めたいと思つています。今は今中まで、家族や学園と決めて下つた教員の方の思い、そして何れも自分の気持ちに合った卒業を目指したい。これに頑張りたい。

(2) 特別活動 ～子ども食堂へ絵本を届ける

学園では国立市との地域連携の中でさまざまな活動を生徒と行なっている。その中から、子ども食堂への絵本の寄付に関わってもらった。絵本は生徒、教職員から集めたもので、本を手にする子ども達へのメッセージカードをつけて贈呈する。生徒はまず絵本を読み、それを手に取る子ども達の姿を想像しながら、一冊一冊にメッセージを書いていく。

①活動内容

Aさんはその活動を手伝い、図書委員の生徒と一緒に重たい本を持ち、子ども食堂へ届けるまでを共に行なった。

書かれたメッセージは、低学年の子が読むであろうことを想定した分かりやすい言葉づかいで、Aさんの相手への想像力や思いやりが分かるものであった。

②今後

この子ども食堂では、気に入った本があったら子どもは持ち帰ることができる。そして自分が読まなくなった本、誰かに読んでほしい本にメッセージをつけて食堂に置き、またそれを誰かが手にし、持ち帰ることもある。このように本とメッセージを通した人のつながりをつくる試みが実践されていた。

Aさんがメッセージを書いた本は、国立市の地域の子どものつながりの輪の中に入れていく。Aさんは料理が得意である。今後、地域で暮らす中で、子ども食堂をはじめ

自分にできることを見つけてほしい旨、話し合った。



【Aさんのメッセージ | 例】

「くりすますは
いえすさまの
たんじょうびだよ
みんなもいっしょに
おめでとうって
おいわいしてあげよう！」



【子ども達をつなげる絵本棚】

【子ども食堂から、絵本へのお礼状】

昨日は絵本を届けて頂き
ありがとうございました。

帰宅後さっそく中身を拝見しました。
どの本のメッセージもとても素敵でした。
生徒さんの人柄や思いがこもっていて、
受け取る子どもたちを想像しながら
書いてくれたんだな、
と様子が浮かびました。
本当にありがとうございます。
子どもたちにも、思いがきっと届くと思います！

また、子ども食堂の様子や、
本をもらってくれた子どもたちの様子など
写真でご報告しますね。
どうぞよろしくお願いします。

コトナハウス/ぐるぐる食堂

(3) 出院時のカンファレンス

新型コロナウイルスのため、多摩少年院のシステムを使ったオンライン会議での開催となった。多摩少年院に本校の担任とスクールソーシャルワーカーが、保護観察所に本人、保護者、保護司がそれぞれ集合し会議を行った。遠隔での会議を日常的に実践している少年院、保護観察所の業務の幅広さを実感した。

◆ケース会議記録	*取扱注意
開催日： 出席者：①本人、母親 ②保護観察所、保護司 ③多摩少年院：統括専門官、担任 ④NHK学園担任、スクールソーシャルワーカー	
生徒情報：生徒番号	氏名 A 生年月日
クラス	担任 都道府県
1. エコマップ ===== 良好 _____ 普通 ++++++++ 葛藤 - - - - 希薄	
2. アセスメント（見立て） ・家業を手伝う意志を固めている。そのために今後経営などについて学びたい、また必要な資格を取りたいという目標がある（やや家族の関わり… 強い傾向にあるようにも見受けられる。仕事と生活が家族内で完結しないこと、家族以外のつながりが必要か）。 ・院内でコミュニケーション能力や観察力などを身に着け発揮し、自信を持つことができて いる。 ・高度な社会性ある、新しい価値観を身につけた。	
3. 今回の確認点（目標） ○遵守事項： ・再非行しない。 ・健全な生活を送る。 ・夜間徘徊、たむろしない。 ・以前の関りを断つ。 ・就労の継続。 ・定期の面会、その他。 ・ <u>院で得たスキルや気づきを大切に、生活の中で実践する。学校で得たものも同様。</u> ・しっかりと働くことで、家族の人生を支えていきたい。 ・高校卒業をはじめ、仕事に必要な免許や資格を取得する。 ・院内で学んだ Excel の技術を使って、家業の事務を手伝うことから始める。	
4. 本人より ・自分だけ良ければ良い、という自分がいた。 <u>今は他人のことが分かるようになった。</u> ・まとめ役を任せられ責任を伴う立場の中で、人を変えるのではなく、 <u>自分が変わることで変化すること</u> もあった。コミュニケーション能力も上がった。 ・家族が面会に来てくれ、差し入れ等もしてくれ、そのあたたかさが良く分かった。恩返しをしていきたい。	

5. 各機関、関係者より

①少年院担任

○大変成長したと思う。具体的には、

・早い段階から、相手の立場に立って考えられるようになりたい、という希望が出ていた。

・相手の困っていること、助けの必要性を感じ取れるようになった。

・… として相手の問題行動を指摘する時、とてもいねいに伝えることで相手も素直に理解していた。対人関係能力が非常に高くなった。

○懸念事項：係活動でノルマ終了に向けて焦った時、厳しい目つきなど顕示性が出たことである。不良的価値観、力によらないあり方を実践してほしい。

②学園より

大変成長したと思う。家族を大切にしながら、人としての自立を考えてほしい。

③家族より

家ではわがままな面も出てしまう。

→その場合は、保護司の方に相談し一人で悩まないようにする。

6. その他

①今後の資源

新しい仲間をつくる、家庭外にも関係をつくる候補として、地元のバスケットボールチームを検討する。

②宿題への回答

・入学時の学園からの宿題：努力しても成果が出ない、成果が出ても人に認められない場合はどうするか？

・回答「人から認められなくても良い、と考えた。またあきらめずに続ける努力もする。」
(他者頼みの評価ではない価値観を、自分に持つことの大切さを考えている。)

7. 出院後について

○今後の相談先：家族、保護司、少年院（出院後支援）

8. 目標と役割分担

目標	担う機関・人	具体的方法・役割
○短期目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遵守事項 ・ 学習の完結 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家業の手伝い ・ 生活の安定 	保護観察所、保護司 NHK 学園 保護者
○長期目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事に必要な学びと資格取得 ・ 変化した価値観などを維持し続ける 	将来、必要な進路相談、手続き支援は学園	相談、地域での活動など

9. 次回の会議予定

なし、必要があった場合、調整の上、情報共有など実施。

2. ケース2：Bさん

院内で学ぶ喜びを発見したBさんは、入学時から大学進学が目標であった。母親の事業を意識し、経済学や経営学を学びたいと表明していた。多摩少年院内での学習で、高校卒業程度認定試験に合格した後は、学園での学習と並行し大学への受験勉強も始めていた。

(1) 生徒の傾向と特徴

①学習と入学の動機についての記述



【概要】

- ・ 語句の使用頻度の多さは、「NHK学園」が非常に多く「高校」と合わせると、高頻度の語句の3分の1を占めている。続き「少年院」が頻出する。その文脈は、少年院にいながら高校へのチャンスがあることへの驚きや期待に満ちたものであった。生徒が院内で前向きな姿勢でいることがそのまま表れている。
- ・ 平らかなイーブンな語句が半数以上、ネガティブな語句は3しかなく、残りはほぼポジティブな語句であった。ネガティブな語句は「罪」「問題」で自分の行為を意識している。他は高校での学習への期待に満ちた、また周囲の支えを意識した語句である。

以下、記述の一部を抜粋。

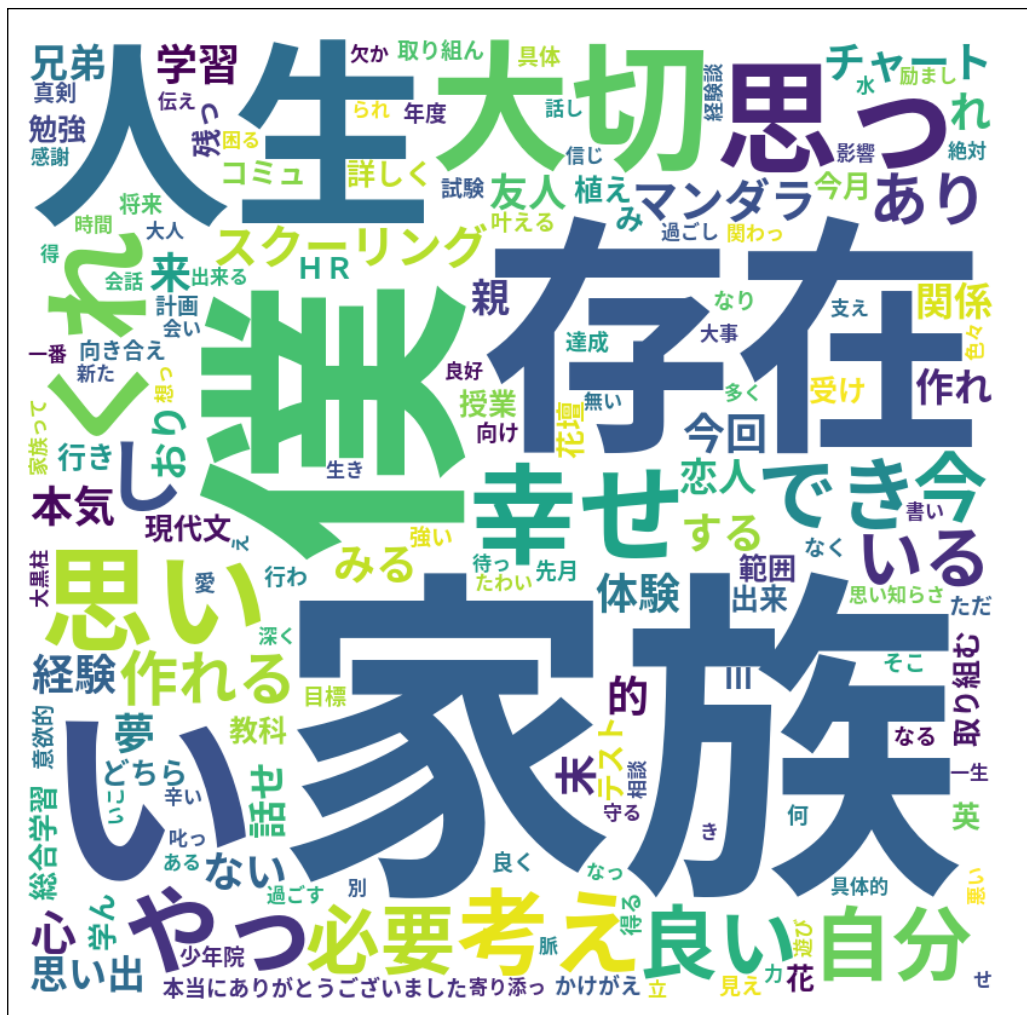
「…（レポート学習について）現代文では、「私はあなただったかも知れない」を読んで、とても感じる事が多く、今こうして勉強できている事に感謝の気持ちが改めて芽生えました。…」

「…あと 24 単位を習得すれば高校を卒業できるという状況でした。そんな中、罪を犯してしまい少年院にいる僕は在院中に高校に通えるなんて思ってもみなかったので、…」

「…そして僕が少年院を出院した後も通うことができ、今の僕にとってとても NHK 学園は適している環境だと思い、…学べることになったのでこのチャンスを生かし、より多くの自分自身の成長につなげたいと思います。」

いずれも学ぶチャンスへの喜びや少年院の環境への感謝、そして見通しをもって自分の成長につなげようとしている意欲が静かに伝わってくる。

②学習そして家族について



【概要】

- ・ネガティブな語句の使用が5に対し、ポジティブなものは48となっている。家族について非常に肯定的である。使用頻度は「家族」が最も多く続いて「僕」となり、関係性を考察している。他は「存在」「大切」と続き、院内で家族の支援、思いに改めて気づいたことが表れている。

以下、記述の一部を抜粋。

「…僕にとって家族とは、かけがえない大切な存在です。今までは家族に対してそこまで強い愛もなく、家族はただの家族というように思っていました。ですが今回少年院に来て、いかに家族というのは僕にとって人生において大切な存在なのかという事を思い知らされましたし、自分が辛い時会いに来てくれたり寄り添ってくれたり、本気で僕に対して叱ってくれたり励ましてくれたり…」

③学習と長所について



【概要】

- ここではポジティブな語句は 34、それに対しネガティブな語句が 18 使用されており、他の傾向と異なっている。それは自分の長所は、反転すれば短所ともなるという洞察があるからである。誰とでも仲良くできる、やろうと決めれば集中してこなせると言う長所が、逆に人に影響されやすく流されやすい、やればできるから自分に甘くなる、そのことが犯罪につながったのではないかと振り返り、自己分析している。

以下、記述の一部を抜粋。

「…ですが逆に僕はやればできるタイプだから、あえて面倒なことは…、やらない選択を取ることが多かったです。そして僕の短所は主に、人に流されやすい所で、…人と仲良

(2) 特別活動

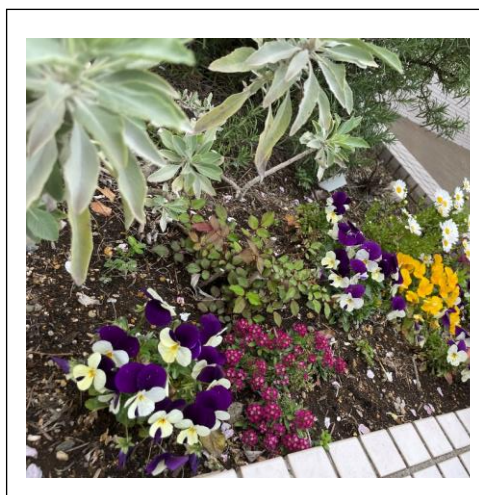
特別活動として、前述のAさんと同じ寄付用の絵本にメッセージを書いてもらった。また、学内花壇の整備と、進路に役立つ「曼荼羅チャート」(以下詳述)を作成した。

①花壇の整備

学園玄関前には花壇が設置されている。春に良く咲き続ける花として、ビオラ、ノースポール、アリッサムなどを植える活動を行なった。植物を植えるのは初めての体験だという。

土には事前に肥料や腐葉土をすきこんであったので、土と根をほぐし植える。土と根っこという大切な箇所少し手をかけることで、のびのび育っていけること等を伝える。「こんな風に得ることができるなんて、はじめて知りました。」と目を輝かせ、花壇を見る人の視線で色の配置などを考えた。

Bさんが植えた花々は、現在も学園に登校する生徒や、道行く住民を楽しませている。



②曼荼羅チャート

●取り組み内容

これは自分の目標に向かって何が必要か、どんな準備をしていけばいいのかを、大きな事柄からスモールステップにしていくチャートづくりである。より実現可能で具体性のあるものに広げていける特徴がある。

中心の点線で囲まれたコマに目標が書かれ、その周囲の8コマが目標達成に必要な事柄。さらにその8分野を中心に据えて、そのために実際に必要なことを細分化して考える流れになる。

●作成過程

担任からチャート作成の仕組みを説明すると、非常に集中し黙々と仕上げていった。担任によれば制限時間内に全てを記入できる生徒は少なく、その目標に向けた具体性ある考察力と集中力が評価されていた。

【未来に向けた曼荼羅チャート】

お金についての知識	経済社会の仕組み	基礎学力	英語を完璧にする	必須語を完璧にする	留学をする	外国人と出会う	一期一会を大切に	成功者のセミナーに行く
貿易の知識	① 知識	世界の仕組みを深める	月曜から英語勉強	② 語学力 語学力	外国人の友達を作る	親の助けを借りて	③ 人脈	家族を大切に
なぜの追求心	株価と為替の変動グラフ	国際情勢の把握	世界の文化に馴染む	英検1級	洋楽を聞く	出会った人を忘れない	自分から積極的に関わる	心からのリスペクト
健康	体力	行動量を増やす	① 知識	② 語学力	③ 人脈	成功体験を他人にする	色々な事チャレンジする	失敗を恐れない
常識と動	④ 行動力	計画的な力	④ 行動力	貿易関係の仕事を知る	⑤ 経験	失敗が字が	⑤ 経験	読書
思いを大切に	交際先を良く	予想に先に動く	⑥ 思い	⑦ 時間を守る	⑧ 知力	成功者から話聞く	当事者意識	日記を書く
優しく接する	ありがとうを他人に言う	人目かけ	良い生活習慣を送る	寝ないため寝る	約束を守る	柔軟性	善悪の判断力	経馬の3は出し作り
竹戸	⑥ 思いやり	相手の気持ちと教える	遅刻しない	⑦ 時間を守る	10分前行動	信頼される人になる	⑧ 文才力	優先順位を明確にする
感謝を忘れない	親切な精神	机を片付けて心を落ち着かせる	時計を見る	朝月に月券つ	必要な時間を逆算する	状況判断	視野の広さ	自分に自信を持つ

●本人より：今月取り組んだ内容について、印象に残ったことや、質問したいこと

「今月はスクーリングに行き学んだ事がとても心に残っています。総合学習でやった、マンダラチャートや各教科の授業を受け、テスト範囲について改めて、詳しく勉強できたことや、HRで花壇に花を植えた事は僕にとって人生で初めて体験した事で、とても良い経験をする事が出来、心からまたやってみたいと思いました。今回は本当にありがとうございました。」

●今月取り組んだ内容で、今後の自分に活かせると感じたこと

「何より、マンダラチャートを自分なりに考え、将来の夢を叶えるために必要な物は何かその必要な物をどうやって得るのかという事、真剣に考えた事は、夢につながるために必要な事と向き合え、達成するための具体的な物が見えたので、本当に良い経験になりました。」

(3) 卒業に当たって

Bさんは本事業で高等学校の卒業証書は手にしていない。卒業に必要な履修単位数より少なめの無理のない学習をしていた。そして少年院内で高校卒業程度認定試験に合格し、その受験資格をもって在院中に大学を受験し合格したからである。

少年院内において、学びの楽しさと自分の力に気づき、高校の学習もしっかり行ない、同時に大学にも進学することができた。学園での学習と合わせ、その多くは少年院内の指導と本人の努力の結果であると思う。

最後にケースカンファレンスの代わりに、本人、多摩少年院担任、学園担任とスクールソーシャルワーカーとで面談した。終わりにBさんはすっと立ち上がって、学習の機会を得た喜びと感謝、未来へ向かう決意について、自分の言葉で述べてくれた。見事な卒業であった。

VI. 研究事業の完了

1. 法務省の検討会

2020年6月25日に第1回「少年院在院者に対する高等学校教育機会の提供に関する検討会」が開催された。同年12月には、その後の委員会の成果を盛り込んだ検討会報告書が公表された。報告書によれば、在院者にとって各地の少年院と地理的に近い通信制高校が連携・支援していくこと、また、各省の連携などがまとめられている。さらには、今後モデル事業としてさらなる取り組みが予定されている。この3年間の事業をはるかに超える急速な展開に、感慨深いものがあることを言い添えたい。

*添付資料

2. 課題について

本事業の中での課題は、在院中のスクーリングや試験の実施方法、少年院の施設と人材の活用、院内教育内容を単位認定に組み込む可能性、地域への再統合等、非常に多岐にわたるものであった。前述1の検討会とそれを踏まえた学校教育法施行規則等の一部改正、今年度以降のモデル事業等の展開に託したい。

3. NHK学園での継続について

この3年間の調査研究事業は、法務省、多摩少年院の多大な尽力があつての事業であった。またタブレットの仕組みづくりにおいては、NTTドコモのこれまでの教育機関での経験が大きな力となった。今後、多摩少年院との協働により事業の成果を継承・発展させることとなり、既に4月に入学者を1名迎え学習をスタートしている。

また、本校では、本校の進路指導部が中心となって、今年度から、多摩少年院内でも学習支援を行なっている、「たちかわ若者サポートステーション（受託元 NPO 法人育て上げネット）」の協力を得て、「あすなろカフェ」（生徒が気軽に進路についての相談をし、適切な助言が得られる取り組み）をスタートさせた。出院後、学習継続に困難なケースが出た場合、この「たちかわ若者サポートステーションの育ち上げネット」はもちろんのこと幅広い力をお借りして、少年たちを支えるチームをつくり、支えていきたい。

… 最後に …

本調査事業の成果については、何よりも生徒一人ひとりの力に負うところが大きい。更生を目指す少年院在院時から通信制高校で学ぶという新たな取り組みに、多摩少年院と共に果敢に挑戦してくれたのである。

一部、学習継続が難航した生徒について、学びたかった気持ちを支え、解き放つことができなかつたことは学園としても心残りである。が、新しい取り組みにチャレンジした自分を、褒めてあげてほしいと思う。学びたい気持ちとその機会は、いつかめぐってくる。通信制高校は再チャレンジの機会に満ちている。

* 添付資料

「少年院在院者に対する高等学校教育機会の提供に関する検討会報告書より（概要）

http://www.moj.go.jp/kyouseil/kyousei03_00007.html

少年院在院者に対する高等学校教育機会の提供に関する検討会報告書（概要）

在院者の現状と課題

（令和2年12月）

- 在院者の6割余りが中学卒業又は高校中退（右図参照）
- 出院者の1割余りが、希望するものの進学先が未決定

少年院における支援

- 高等学校卒業程度認定試験受験者への指導体制強化
- 修学先の情報収集支援 ～ 修学支援デスク

新収容少年の教育程度



➡ **高等学校教育機会の提供の必要性** = 通信教育ならではの特長を生かして、少年院と通信制高校の連携を図ることが重要

検討会の概要

高等学校での学習を希望する少年院在院者に対して、高等学校教育の機会を在院中に提供し、出院後も学校に在籍して学びを継続するための方策を、法務省において文部科学省や通信制高校などとともに検討を行った。（第1回検討会：令和2年6月25日）

少年院と通信制高校との連携方策

少年院在院中に通信制高校への入学を可能に

- 少年院在院者と保護者への入院当初からの情報提供、入学に向けた支援（説明会、四者面談の実施等）
- 少年院在院者の入院時期の不定期性を踏まえ、通信制高校による高校入学時期の柔軟な対応の検討



少年院在院中に通信制高校での学習を実施

- 在院者の自律的な学習姿勢を育てるため、学習計画作成等への本人による積極的な関与、少年院職員による指導・支援
- 通信制高校の課題等に取り組む学習時間の確保（個別の学習時間の設定等）
- 高等学校によるスクーリングやインターネット等を活用した学習のための環境整備等



出院後の学びと高校卒業に向けての支援

- 少年院及び通信制高校との間で、本人の学習状況等について積極的な情報共有
- 少年院と通信制高校が連携した進路指導や学校見学等の実施
- 保護者、更生保護官署、関係者間で情報交換の場を設け、在院中から出院後の切れ目のない支援体制を構築
- 「出院者等からの相談」制度の活用による少年院職員の支援の継続



少年院の矯正教育が高等学校の単位に

- 少年院の矯正教育の通信制高校での単位認定に向けた措置
- 高等学校で上記単位認定をするために必要な矯正教育の実施状況についての共有の在り方を検討
- 同学年での（編・転）入学に向け、入学年次に関する考え方の整理



今後の施策の方向性

- 効果的な実施に向けた環境作り（法務省と文部科学省との連携）
- 地理的に近く、連携関係の築きやすい少年院・通信制高校の間での実施
- 少年院と通信制高校の間で、具体的な取組に向けた協議の実施
- 少年院の矯正教育の単位認定を行うに当たってのガイドラインの整備

⇒ 令和3年度、複数のモデル施設において実施予定